

地域振興推進費事業実績・自己評価書

提出区分	実績	整理番号	13	課題区分	C	令和3年3月31日	
横断的な課題							
地域重点政策	「木曾らしさ」を活かした地域づくり					木曾地域振興局	
実施機関	木曾地域振興局 企画振興課			担当課	所属	企画振興課	
事業名	子どもの成長記念品作成事業				電話	0264-25-2212(直通)	
					E-mail	kisoichi-kikaku@pref.nagano.lg.jp	
事業概要等	目的 (目指す姿)	人口流出対策として、子供に地域の伝統工芸を活用した成長記録(記念品)を配布し、ふるさとへの思いを深めさせる。あわせて地域の伝統工芸品への振興による地域活性化を図る。					
	現状と課題	木曾地域は、地域材を活かした漆器、ろくろ工芸、お六櫛等の木工品をはじめ、南木曾ねこ、百草丸等の伝統工芸品が伝承されており、地域産業の大きな比重を占めるとともに、地域内でも愛用されている。 また、人口減少が続いており、少子化対策、移住促進と併せ、人口流出対策が必要である。 各町村では、小中学校の入学、卒業等の節目に記念品を子供たちに配布している。 この配布時期を早めにし、幼少期から地域の伝統工芸に親しむことにより、故郷への思いを強め、人口流出の減少、また、流出した者の回帰を促進する必要がある。 あわせて、伝統工芸品の振興も図り、次世代への伝承を促進する。					
	内容 (変更後の内容)	地域の伝統工芸品を活かし、人生の節目(成長)を記念するグッズを子供たちに配布することにより、子どもたちの地域定着、伝統工芸の振興を図る。 初年度は、南木曾町をモデルとして、地域で古くから愛用されている「南木曾ねこ」を活かした保育園入園用品を試作品として作成・配布し、子供たちの反応、父母の意見、費用対効果などを検証する。 次年度以降は、南木曾町が今回の試作品、検証結果を元に入園児を対象とした事業を実施するとともに、他の町村にも幼少期から伝統工芸に親しむ事業の普及を図る。 (1) 南木曾ねこを活かした絵本用布製バックの試作 保育園通園時に毎日持参する「絵本用バック」を「南木曾ねこ」の縫製技術、デザインを活かし作成 (2) 地域材を活かした木製手形チャームの試作 木材加工技術を活かし、園児の手形(実寸大)をベースにしたチャームを作成。 さらに、名前、生年月日をレーザーで刻印。 絵本バックの名札としてだけでなく、手形をベースに作成することにより、一点物となり、一生の記録として、卒園後も活用され深い愛着がわくことを期待。 なお、保育園児の日常的な使用により、伝統工芸品のPR、町の風景づくりにも効果を期待。					
事業期間	令和2年6月1日		～	令和3年3月31日			
事業費等	(単位:円)						
	事業を構成する細事業名等	実施内容	実績額	備考			
	保育園入園児への記念品配布 (絵本用バック及びチャーム)	地域の方との試作検討	82,885	試作品政策委託(絵本バック3種類、チャーム3種類)			
		記念品製作	127,150	製作費(2歳児17名分)、手形の採取用インク、資料作成			
合計		210,035					
指標及び達成状況	成果指標		目標値	成果	達成状況		
	試作品(絵本バック・木製チャーム各3種類)製作・贈呈用製作		17名分	100%	● 達成		
					○ 一部達成		
					○ 未達成		
事業実績・成果	南木曾町の地域の技術力を生かした記念品を完成させ、2歳児17名に絵本バック及び木製手形チャームを贈呈することができた。(R3.3.25贈呈) 記念品完成に至るまで、楯木工製作所及び南木曾町ねこ製作組合、南木曾町教育委員会、当局職員で5月から丁寧な、記念品のブラッシュアップを図った。 今回の事業をとおし、事業者からは初めての試みに製作意欲が高まり、記念品贈呈が継続できる道を探りたいとの意見があった。また、2歳児と保護者には地域の技術力と心を込めた記念品であることをお話し、感謝の言葉があった。						
今後の方向性	南木曾町では、出産祝いとして地域の木材を活用した木のおもちゃをプレゼントしている。 今回の記念品も出産祝い品の一つとしてエントリーできるよう働きかけていきたい。						



手形木製チャーム

絵本をモチーフに作成。背表紙部分に名前と2さい、表面には手形と手形採取日、裏面は南木曾町公式キャラクターの『ぽかにゃん』をレーザー加工している。



絵本用バック

上部の丸みを帯びた部分は、「南木曾ねこ」の襟元をイメージ



記念品のおはなし



贈呈式での記念写真